

コミュニケーションの積極性を育成する

(その2)

～ 聞き手を育てる ～

「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」のために、聞き手を育てるとはどういうことですか？



コミュニケーションの積極性を育成するとなると、教師としては、どうしても話し手（話す側）の指導に意識が向きがちです。Big Voice, Smile, Clear Voice...などと黒板に掲示し、話し手として留意すべき点を指導されている場面はよく見かけます。とてもよいことです。



しかし、それと同時に、聞き手（聞く側）としての態度を育成することも大切です。

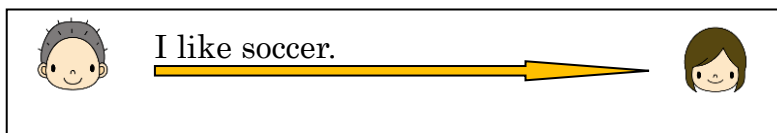
相手の目を見て話を聞くようにさせるのも、聞き手として望まれる態度の一つですよね。




もちろん、その点も聞き手として大切にしなければいけない視点です。次の例で考えてみましょう。



例)



特にスピーチ等では、このように話し手が一方的に伝えるだけになってしまうことがあります。聞き手である  さんがしっかり聞いていなければ、コミュニケーションは成立しません。

何か相手にわかるような反応をすることが大切なのではないですか？



そのとおりです。

相手の発言に何らかの反応（リアクション）をすること。これが、聞き手としてのコミュニケーションへの積極性です。



反応（リアクション）



相手の言葉にうなずくのも反応（リアクション）と考えていいですか？



うなずき等のジェスチャーも重要な反応（リアクション）の一つです。ジェスチャー以外には、次のようなものが考えられます。



- あいづちを打つ。
 - 称賛する。
 - 相手の言いたいことを短く繰り返す。
 - 質問する。
- など

例)



I like soccer.

反応（リアクション）



称賛する。

- Really? • Me, too.
- Good!
- Oh, soccer. • You like soccer.
- Oh, do you play it every day?

あいづちを打つ。

相手の言ったことを繰り返す。

質問する。

これらの態度については、教師から教えることも考えられます。



話をしている人に積極的に、反応することが大切です。例えば...。そうされると話をしている人はうれしいよね。どんどん話したくなるよね。

しかし、児童の「気付き」を促す上でも、教師が、聞き手としての反応（リアクション）を意図的に行い、児童にその様子をインプットすることをおすすめします。

そうすることで、児童は、自然にモデルである教師の姿をまねるようになります。聞き手として積極的に反応（リアクション）した児童に対し、機を逃さず称賛してあげることで、さらに積極性が増します。

外国語活動において、HRT（学級担任）が「コミュニケーションのモデルである。」とは、まさにこのようなことを指します。

Wow! Great!

At six?

I like sushi, too.



ぜひ、聞き手を育成する視点で、英語での反応（リアクション）を教師自身がどんどん行い、児童に聞き手としての態度を育成してください。